

平成 30 年 3 月 13 日

報 告 書

新潟市西区自治協議会
会長 岩 脇 正 之 様

西区自治協議会委員 大 谷 一 男

本日、新潟市役所において開催された「平成 29 年度第 2 回新潟市防災会議津波対策専門会議」に出席したので、その概要を下記により報告します。

記

会議の議題と協議内容は、以下のとおり。

(1) 新たな市津波ハザードマップに使用する浸水深の色分けについて

<資料 1(浸水深の色分け)関係>

これまでの色合を改めて、国際標準となっている国交省の配色区分に修正することとした。道路については国県市道の主要道のみを表示し、高速道路と鉄道にあっては色をグレー色で表示することとし、見る人に危険性が伝わりやすくするために建物や大人や子どもの高さと比較して浸水深の高さを示した凡例図と浸水深の高さに応じた見方についても確認を行ないました。

例、0.3m以上～0.5m／歩行による避難が困難となる

0.5m以上～1.0m／車が水に浮き流れ始める

<津波浸水想定最大浸水深図関係>

国交省の配色区分に基づいて修正案の確認を行いました。図面 2-2 を確定したこと。

(2) 同上、基準水位(せり上がり浸水深)の表示について

<津波浸水想定津波到達時間図関係>

津波到達時間図に表示する配色区分は、赤・黄・青の信号機の色分けに合わせて以下のとおりとした。

赤色…発災～30分未満

黄色…30分～120分未満

青色…120分～約7日後

以上の現象が起こる地図上の範囲を確認し、図面 3-2 を確定したこと。

<資料 1(基準水位・せり上がり浸水深の表示)関係>

引き続き、確定した図面 3-2 の赤色で示された、特に海や川に近い地帯には建物等に衝突して津波がせり上がるため、せり上がる地帯を赤色で表示した部分に「白」で網かけで表示することとした。

なお、上記以外の図面は廃案とした。

(3) その他

津波ハザードマップを検討するにあたって、より高いところへより遠いところへ避難することが肝要であると感じました。西区では海岸線が長く連なるため津波到達時間図に示された赤色に「白」の網かけで表示された地域は特に注意を要することを申し添えます。

また、西川以南の地域にあつては新川の堤防の陥没による浸水と追っかけ遡上する津波の影響が指摘されていたことを付け加えたいと思います。

今回の専門会議で津波ハザードマップ作成の最終方針が固まったため夏頃を目途に鋭意編集作業を進めることになりました。市民に向けての告知は「市ホームページ」「市報」に加えて、市民の学習を考慮し津波避難地図を市民に向けて配布することが市当局から説明がありました。

以上